

令和7年度 奈良市立六条幼稚園 研究実践概要

園長名 鍋谷 理佐子  
全園児数 9名

1. 研究主題

「豊かな体験を通し、主体的に活動する子どもを育てる」  
～いろいろな人との関わりの中で～

2. 研究年度

初年度

3. 研究主題設定理由

今年度より園児数の減少に伴い、4、5歳児合同の複式学級として保育を行っている。子どもの主体性を育むために重要な要素となる人との関わりを保障していくためには、従来の多クラス編成と比べてどのような環境構成、保育者の援助の工夫が必要になるのか、また、少人数であることで子どもの遊びや生活にどのような影響が見られるのか、保育実践を通じて理解を深めていく。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

遊びや生活における姿から子どもの学びや変容を捉え、豊かな人との関わりへの保障に向けた環境構成や援助の在り方を探る。

②研究の重点

実践より子どもの姿を分析し、様々な人との関わりの中で子どもの学びや変容、また、そのことにつながるような環境構成や、保育者の関わり方について検討、共有する。また保育者間で遊びを振り返り、様々な視点から遊びを見取る。

③活動の方法

遊びの中で子どもが意欲的に活動する姿や、その要因となるきっかけになった場面を捉え、事例を挙げて職員間で話し合いの場をもち、研究を進めていった。

【環境構成… \_\_\_\_\_ 保育者の関わり… \_\_\_\_\_】

「トリプルパワーや！」4、5歳児 6月

前日に遊んだ用具を目につきやすい所に置き、遊びはじめやすいようにする。

遊び（活動）の様子	関わりへの保障に向けた保育者の思い
坂道にトイを置いて、水を流す遊びをしているA児（4歳児）。遊びが始まると自分から坂道に行き、トイのコースをつくっている。出来上がったコースにペットボトルに汲んだ水を流すと、ゴールの手前が上り坂になっていて水が進まず、流れ出してしまう。側にいた保育者に「ダメだ～」と話しながらも繰り返し水を流していると、その様子に興味をもった5歳児のB、C児（5歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者と一緒じゃないと遊べなかったA児が今日は自ら遊び始めていることから、安心感をもって遊べるようにA児から見える位置で見守ることにする。</li> <li>・保育者に手伝って欲しい様子であるが、あきらめずに続けて</li> </ul>

<p>児」がやってきて、A児が水を流すのを見ている。A児が「あそこが流れない」と独り言のようにつぶやくと、聞いていたC児が「3人で一緒に流したらいいんじゃない？」と話し、B児も「一緒にしよう」と誘いかける。A児は少し不安な様子で保育者を見ている。<u>保育者がB児に共感し「いけるかもしれないね」と話す</u>と、B、C児と一緒に遊び始める。</p> <p>バケツの方が（水が）いっぱい入るよ、と3人でバケツを取りに行き、「いっせーの一で！」と一緒に流すと、勢いよく流れた水は上り坂を進んでゴールまで流れた。その様子を見ていたA児は「トリプルパワーやな！」と保育者の顔を見て嬉しそうに話す姿があった。</p>	<p>いるので、声をかけるタイミングを見計らっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児の誘いが嬉しい反面不安もある様子、5歳児の提案に共感してA児が安心してくれば、と考える。</li> <li>・5歳児と一緒に遊んだことでA児の思いがかない、喜びを言葉にしている。<u>保育者も笑顔で応える。</u></li> </ul>
<p>子どもの変容・考察</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や5歳児に思いを受け止めてもらったり一緒に遊んだりする経験を通して、自分の興味をもった遊びに積極的に取り組もうとするようになっていった。</li> <li>・同じクラスで生活していることもあり、異年齢の関わりも多く、自然に行われている。保育者が直接関わるのではなく、5歳児とA児をつなぐ役を担うことで、保育者とA児1対1の関係から一歩踏み出して子ども同士で遊びを進めていく楽しさを味わう機会をつくることにつながった。</li> </ul>	



<p>「あっちのパン屋さんまで飛ばしたい！」 5歳児 9月</p>	
<p>遊び（活動）の様子</p> <p>・クラス全員でバルーンを使った演技に取り組む中、バルーンの上に置いたボールを高く飛ばす技に挑戦するも、なかなか上手く飛ばないことが続いていた。<u>活動の後に集まって振り返り、考える機会をもつ。</u>5歳児の子ども達からは「みんなで頑張ったらいい」「せーの！ってみんなが言ったらいけると思う」などの意見が聞かれた。<u>保育者は言葉を補ったり質問したりしながら、思いや考えを共有できるように関わる。</u>話し合いの結果、ボールを飛ばす際に「せーの、1・2・3」とみんなで言うことに決まった。その後実際にやってみると、前よりも高くボールを飛ばすことができ、喜んだ子ども達からは「もっと大きい声の方がいいと思うで」「手もぎゅって持たんとあかん」と新たなアイデアが聞かれた。運動会当日も、「向こうのパン屋さんまで飛ばかなあ」と友達と話すなど、自信や期待を感じる様子が見られた。</p>	<p>関わりの保障に向けた保育者の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や保育者と一緒に活動する楽しさを味わい、相手の思いに気付いたり受け入れたりする経験を積んで欲しい。</li> <li>・経験したことについて話し合うことで、自分の思いを言葉にして伝えたり友達の話に関心をもって聞いたりする良い機会になると考える。</li> <li>・自分達が考えたことが成功し、もっと高く飛ばしたいという思いが強くなっているのを感じる。<u>保育者と一緒に喜びを共有し、達成感を味わえるようにする。</u></li> </ul>
<p>子どもの変容・考察</p>	
<p>・「ボールが上手く上がらない」という分かりやすい課題があったことで、全員が関心をもって解決方法を考えたり自分事として話を聞いたりすることにつながったと考える。</p>	



・あきらめずに繰り返し挑戦したことが成功につながり、自信をもって運動会に臨むことができた。また、当日もボールが高く飛ばせたことで、友達と力を合わせる楽しさや頑張ったことが結果につながる喜びを味わう経験ができた。

だるまさんがころんだ！4,5歳児 12月	
遊び（活動）の様子	関わりの保障に向けた保育者の思い
<p>園庭で4歳児のA児がボールを蹴って遊んでいるところにB児（4歳児）が来て、「だるまさんがころんだしよう」と誘い、一緒に遊び始める。<u>途中から保育者も一緒に遊びながら</u>、何度か繰り返していると、その様子を見たC、D児（5歳児）が「やりたい、入れてー」とやって来る。A児が鬼役の時、C児はA児の持っているボールに気付き、「それ何に使うの？」と尋ねる。A児が返事に困っていると、C児が思いついたように「じゃあ、ボール当てることにしたらいいやん！」と話す。<u>様子を見ていた保育者が「どんな風にしようと思っているの」と聞くと</u>、C児は『鬼がタッチされた後、逃げた子にボールを当てたら鬼を交代できる』という新しいルールを説明し、一緒に遊んでいた友達も「やろう！」と興味をもっている。A児は新しいルールが増えたことに少し戸惑っている様子だったが、『ストップ』って言って、みんな止まったら転がしていいよ」など遊びながらルールを教えてもらい、一緒に遊んでいた。ボールが当たった時は「当たった！」と嬉しそうな顔を見せていた。</p>	<p>・A、B児の遊びはルールとしては曖昧な所が多いが、2人で掛け合いを楽しんでいるようなので<u>様子を見る</u>。</p> <p>・一緒に遊んでルールのある遊びも経験して欲しい。</p> <p>・Cの提案に周りの友達も興味をもっている。Cの思いを聞いて、遊びを広げて行って欲しい。</p> <p>・CはAが分かりやすいように丁寧に伝えている。Aもやってみようという気持ちになっているので<u>見守り</u>を続ける。</p>
<p>子どもの変容・考察</p> <p>・普段から生活を共にしている複式学級だからこそ、4歳児の遊びに自然な形で5歳児が参加し、一緒に遊ぶ中で簡単なルールのある遊びを友達と一緒に楽しむことができた。</p> <p>・C児がA児に対して優しく声をかけたことで、A児も新しいルールを受け入れ、やってみようとする姿が見られた。また、保育者がC児の思いを受け止め、自分で伝えられるように関わったことで、自ら遊びを進めていこうとする意欲につながったと考える。</p>	

「菜の花プロジェクト」 4・5歳児 5月～11月	
遊び（活動）の様子	関わりの保障に向けた保育者の思い
<p>六条幼稚園は毎年地域の方と一緒に1年を通して菜の花プロジェクトを行っている。菜の花の刈り取り～種落とし～油絞り～種植え～奉納・移植を地域の方々と一緒に取り組んでいる。</p> <p>菜の花の刈り取り（5月）</p> <p>地域の方に手伝ってもらって菜の花を刈り取ったり、刈り取った菜の花を地域の方に渡したりする中で、5歳児は「お願いします」や「ありがとう」と子ども達から感謝の気持ちを伝える姿がみられた。ま</p>	<p>・地域の方が来てくださることを事前に伝え、安心して関わられるようにする。</p> <p>・保育者が笑顔で地域の方と交流する姿を見せたり、子ども達と繋げたりする中で、子ども達も地域の方に親しみをもって関わられるようにする。</p>

<p>た、地域の方から「これを運んでください」と仕事を任せてもらうと張り切って取り組み、褒めてもらうと嬉しそうな表情を見せ、意欲的に活動に参加していた。</p> <p>菜種油奉納（11月）</p> <p>奉納では4歳児、5歳児共に地域の方と手を繋いで笑顔で話をしながら、薬師寺や唐招提寺に向かう姿があった。奉納後、境内を散策した際も、一緒にどんぐり拾いをしながら喜んで関わる姿があった。</p>	<p>・保育者が率先して地域の方に感謝の気持ちを伝え、子ども達にも知らせ、子ども達も地域の方に感謝の気持ちをもって関われるようにする。</p> 
<p>子どもの変容・考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児は去年から継続した関わりをもつ中で安心して関わる姿が見られた。4歳児は地域の方に緊張している様子も見られたが、回数を重ねる度に話しかけてもらった時に答える姿や表情から、安心して関わっている様子が伺えるようになった。</li> <li>・地域の方は子ども達の成長をあたたく見守り、日々の園の活動にも親身になって関わってくださっている。地域の方との1年を通した関わりの中で、子ども達は自分たちが大切にされている実感を持ち、地域の方に安心感と親しみをもって意欲的に活動に参加する姿に繋がった。</li> </ul>	

## 5. 研究の成果

少人数・複式学級は、子ども同士の距離が近く、一人一人の思いや考えが遊びに反映されやすいこと、また異年齢が自然に混ざり合うことで子ども自らが遊びを進めていけるような関わりが生まれやすいことが特徴として挙げられる。こうした環境は、子どもが自分のペースで試行錯誤を続けたり、仲間の姿に刺激を受けて挑戦したりする学びの土台となっていた。また、保育者に求められる役割の質にも特徴が見られた。少人数集団では保育者の存在が子どもに与える影響が大きく、一人一人の子どもとの信頼関係を築きやすい。一方で、子どもの主体性を損なわないような関わりをより一層意識する必要がある、保育者は子どもの思いや友達同士の関係を丁寧に見取り、場面に応じて適切な援助をしていくことが重要である。子どもが安心して挑戦や失敗を重ねられるよう情緒面を支える「心理的安全の保証人」としての役割、子ども同士の関係をつなぐ「媒介者」としての役割、子ども達だけでは調整が難しい場面では「提案者」としての役割、また、子どもの思考や発想を引き出し活動に反映させる「ファシリテーター」としての役割と、保育者が意図的に関わり方を変え、主体的な学びを支える存在となることが大切であると考えた。

## 6. 今後の課題

少人数・複式学級における保育の可能性と保育者の役割の特徴が明らかになった一方で、少人数ゆえの課題も浮かび上がった。1つ目に、遊びの選択肢が限定されやすいという側面がある為、試行錯誤を促す素材の充実や、子どもの思いに応じて再構成しやすい場の工夫など、遊びの多様性を保障する取り組みが求められる。2つ目に、少人数集団では人間関係が固定化しやすく、遊びの中で役割が固定されてしまうことや、多様な価値観に触れる機会が減少するという課題もある。他園との交流を継続的に行うなど、多様性を補う取り組みが必要である。最後に、少人数の学級では保育者の存在が子どもに与える影響が大きく、保育者の意図が強く反映され、主体性を損ねる可能性もある。保育者間で子どもの姿の見取りや援助の意図・方法を共有し、子ども達が主体となって活動できる環境づくりを工夫する必要がある。来年度は園児数のさらなる減少が予想されるため、今年度の研究成果を生かし、より良い集団づくりが行えるよう保育の質を一層高めていくことが求められる。